

## 令和4年度 指定管理施設運営状況評価表

### 1. 施設の概要

施設の名称	むつ市海と森ふれあい体験館		
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人 シェルフオレスト川内	
	代表者	理事長 内田 征吾	
	所在地	むつ市川内町川内477	
指定期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	地域の海・山等の豊かな自然を活用した、地域住民の生涯学習の場及び地域を担っていく子供たちの総合学習の拠点であり、地域の伝統文化の情報発信に寄与することを目的とした施設である。設置目的を踏まえ地域の活性化を図るため、利便性を向上させる運営に取り組む。		

### 2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	6,075	6,229	154
うち利用料金額	50	21	▲29
うち指定管理料	6,025	6,025	0
その他収入等	0	83	83
補助金収入	0	100	100
支出合計(B)	6,075	6,229	154
うち人件費	300	0	▲300
収支差 (A-B)	0	0	0
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	収入=むつ市コロナ感染予防「あんしん店」補助金10万円等 支出=人件費の削減		

### 3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
		指定事業	1,850	2,931
	自主事業	1,750	2,551	801
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・無） 子どもが楽しめるものがたくさんあってよかったという声や、自主事業にも多くの子どもの参加があったため、今後も子どもたちが行きたいと思える施設の整備を行っていく。				

### 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
むつ・小川原地域産業振興プロジェクト 支援助成事業	48	551	704
海と日本PROJECT助成事業	1,177	860	1,082

地域の思いをつなぐ若者育成事業	71	161	168
かわうち・まりん・びーち清掃事業	55	0	0

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A（優 良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適 正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	C	C
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	C	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価

- ㊦指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、改善策も記載すること。
- (1) ③来館者に対して、職員の顔が見えるよう館内の配置換えを行い、適宜案内等を行った。
  - (2) ③1年を通して様々なイベントを企画し、予想を超える来館者が訪れた。
  - (3) ②一般の利用者への貸館利用の促進が不十分なため、SNS等での告知をしていきたい。
  - (5) ①貸切利用などの告知が不十分だったため、こちらもSNS等で適宜行っていく。

7. 市の所管課総合評価

- ㊦所管課は当該評価期間における総合評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、指導内容も記載すること。
- コロナ禍からの脱却を念頭に様々な事業を展開しており、利用者は以前の水準に回復しつつある。収入増に繋がる取組が難しく、数値上では現れていないためC評価とした。今後利用者が増え、貸切での活用も増えていけば、収入は増えると思われることから、貸館利用について、積極的な周知方法を取り入れるよう指導した。

施設の修繕、備品の維持管理については、指定管理料の枠組みで行い、施設の長寿命化に貢献した。ただし、人員配置は、地域おこし協力隊の協力が大きいことから、地域おこし協力隊に頼らずに館の運営ができるよう適切な人員の確保をお願いしたい。